

## 歴史ある松本城

松本城の乾小天守、渡櫓、高さ 29.4m の大天守閣は 1590 年代に築かれた。現在、松本城は日本で 2 番目に古い城であり、国宝に指定されている 5 つの城のうちの 1 つである。

松本城天守は、城郭を構成する 3 つの郭のうち、本丸にあたる。築城当時は、堀と土塁で囲まれた 3 つの郭があり、郭はより強固なものとなっていた。その結果、城は女鳥羽川（南方 1.3km）にまで及び、約 39 万平方メートルの広さを持つようになった。

一番奥の本丸には、城主の住居を兼ねた本丸御殿がある。二の丸には蔵や御殿、三の丸には上級家臣の屋敷があった。

19 世紀には、1868 年の明治維新を皮切りに、社会的、政治的な大改革が行われた。厳しい階級制度が廃止され、城は戦乱の時代の遺物とみなされるようになった。その後、1 世紀半の間に、城の土塁は削られ、城門のほとんどは取り壊され、3 つの堀のうち 1 つはほぼ完全に埋め尽くされた。城の中核となる建造物も破壊されてしまうところだったが、住民の努力により今も残っている。1930 年、2 つの内堀と一番外側の堀の一部（赤色部分）が国定史跡に指定され、以後、保護されている。